



メイド・イン・ジャパンからメイド・バイ・ジャパニーズへ

西オーストラリアからアジアを目指せ

レポート

## 第2回西オーストラリア農業投資環境視察ツアー

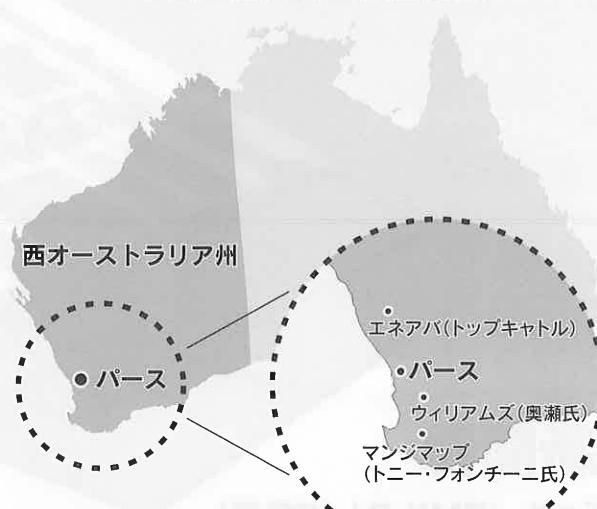
企画：株式会社農業技術通信社 企画協力：西オーストラリア州農務省



本誌の「メイド・イン・ジャパンからメイド・バイ・ジャパニーズへ」という呼びかけに対して、西豪州での農業生産や投資に前向きに検討を進めている読者が現れている。当社ではそのための視察ツアー（西オーストラリア農業投資環境視察ツアー）を既に2回行い、今後も継続する予定である。

第2回目となった今回の視察ツアーの結果について以下にまとめた。

### 今回の訪問地の位置関係



にくらい異業態の経営について触れる機会が多かった。また、種苗や栽培指導の専門家、食品施設設計の専門家も参加し、関心分野についての見聞を広めていただけたかと思う。

今回はじめて訪問した視察場所のうち、印象に残った場所についてレポートする。

今ははじめて訪問した視

察場所のうち、印象に残った場所についてレポートする。

農業投資においては、栽培のプロであることの大切だが、それ以上に最悪のケースを想定したビジネスプランニングが肝心であることを実感した次第だ。現地人の雇用術についても、一言「あまり期待し過ぎないこと」。日本の雇用とオーストラリアの雇用の比較に言及する気はないが、要は「日本人的に言えばそれなりに何でもやつてくれるスタッフ」は存在しないということだろう。スタッフ数を聞いてみると、農場マネージャー1人、えん麦の管理に2~3人。羊の毛刈等その他すべてはコントラクタに委託している。

西オーストラリア農業投資環境視察ツアーアーは今回で2回目を迎える。2月22日から3月1日まで8日間に渡って西豪州の農業・食産業の様々な側面について視察した。参加メンバーは、本誌の「メイド・イン・ジャパンからメイド・バイ・ジャパニーズへ」という呼びかけに、西豪州での農業生産や投資に関心を持った総勢17名である。

農業経営者の参加者は、畑作専門から露地・施設野菜、果樹、肥育牛まで、違ったバックグラウンドを持つた生産者である。視察対象や目的も違い、各視察場所ではそれぞれの専門分野を屈指して情報交換しあうことで、日本では得られ

まさに「メイド・イン・ジャパンからメイド・バイ・ジャパニーズへ」を体現した日本人経営者である。5000エーカー（約700万坪）の農場のうち、10000~15000エーカーはえん麦の干草を作っている。自社でえん麦の加工工場を保有し、年間2万tのえん麦干草を日本に輸出している。また、300頭の牛と、6000頭以上の羊を放牧。数年前に10部屋のロッジとレストランを農場内で開設し、日本からの研修の受け入れを行っている。

奥瀬氏が西オーストラリアにやつってきたのは、16年前の1987年。石油・天然ガスの貯蔵会社のスタッフとして駐在した。今でもその会社のスタッフである。

### ●トニー・ファンチーニ氏 (場所:マンジマップ)

100エーカーの果樹園で、リンゴ、洋ナシ、アボカド、柿、栗、ウォールナツ等を栽培している。経営主体はリンクで、主要品種は西オーストラリア農務



## メイド・イン・ジャパンからメイド・バイ・ジャパニーズへ

### 西オーストラリアからアジアを目指せ



日本では見かけなくなったリンゴのテカテカのワックス処理

省が開発した「ピンクレディ」だ。「ピンクレディ」はその名の通りほんのりとしたピンク色で売り場での見映えがよい。味は甘さと酸味のバランスがとれていて、国内市場だけでなく輸出向け品種として東南アジアやヨーロッパで人気を博している。日本へは検疫の関係で輸出できな。収量は、1エーカーあたり60~70t、単純に日本の3~4倍である。恵まれた気候条件もあるが、日本では完全に規格外になる小玉や裾ものも市場価値を持つため、単に成らせるだけ成らせた結果と見た方がよいかかもしれない。

大規模な冷暗所とパッキング工場を農場内に併せ持ち、参加していたリンゴ生産者は「日本でいえばリンゴ産地でのJAの施設レベルを自前で運営している」と語っていた。冬柿も栽培しており、オーストラリア人も柿を食べるのかと聞いてみると、「実は日本輸出向けに栽培したんだが、できてみると検疫で輸出できないことがわかった」とぼやいていた。経営規模としては日本と比べて大きいかも知れないが、ビジネスとしてはリサーチせずに作ってしまつて困った、という日本でもありがちな構図には苦笑せざるにはおれなかつた。しかし、オーストラリアの柿の品質は高く、検疫さえなければ日本に入つてきておかしくないと考へれば、今はトニーさんにとっては投資段階なのかも知れない。

### ●トップキヤトル (場所..エネアバ)

西オーストラリアでは唯一のF<sub>1</sub>和牛の繁殖農場だ。それも和牛の血が濃いF<sub>2</sub>、F<sub>3</sub>というレベル。スケールはまさに想像を絶する10万1000ha。土地代2000万豪ドル、牛・施設・機械代3000万豪ドル、土地等の整備代300万ドルの投資をかけたビックプロジェクトだ。にも関わらず、広大な農場には数百頭の和牛しかいない。その子牛は肥育用として売れる重量をはるかに超えており、行き場もなくただそこにいる。濃厚飼料も与えられぬまま成長している。「買い物手が見つからなかつたんだよ」とファームマネージャーが漏らしていた。参加した肥育生産者も、こんなところに和牛がいる。



買い主を待ち続ける和牛たち!

さ加減に唸然としていた。せっかく和牛を繁殖しているのに、生体輸出先は東南アジアであつてなぜか日本ではない。輸出担当マネージャー曰く「来月、東京のフレデックスに行つてお客様を見つけてくる」

たくましい限りだ。何を考えてこの農場を作つたのかオーナーに聞いてみたかったが、残念ながらお会いできなかつた。この広大なフィールドとたくましさの影には、もしやオーナーの壮大な戦略が隠されているかも知れないと想像すると、それだけで楽しかつた。逆にいえば、ラフな分だけどんな絵でもこのキャンバスに描けそうな気がする。日本の肥育生産者や調達企業にとつてもおもしろい話である。

**本誌では、視察調査をはじめ読者の皆様の西オーストラリアでのビジネスプランを応援していきます。詳しくは、担当・昆、浅川までお気軽にお問合せください。**

### ●第一農場の可能性 in西オーストラリア

本誌では、今後も西オーストラリアでの第一農場作りを視野に視察ツアーや続けていく。テーマは、和牛のケースに見られるように、どんな農場を作るかではなく、自分の経営に、そして人生にどんな絵を描くかである。一度訪問すれば皆さんも、ビジネスプランとライフプランを両方満たすにふさわしい器の大きさを感じてもらえるだろう。これは単に土地の大きさのことではなく、人々の度量を含めた風土の大きさである。あとは、自分の器がどれだけのものが計つてみるだけだ。

最後になるが、西オーストラリア農場の山本氏には視察場所のアレンジ、現場での通訳等、多岐に渡つて大変お世話になつた。Japan Australia Settlements Pty Ltdの鈴木氏にもご同行いただき、現地での投資についてアドバイスを受けた。この場を借りて参加者を代表してお礼申し上げたい。

（浅川芳裕）



## メイド・イン・ジャパンからメイド・バイ・ジャパニーズへ

西オーストラリアからアジアを目指せ

### 座談会

農業投資・資産管理から考える

## 今、なぜ西オーストラリアなのか？

日本および西豪州でファイナンシャルプランナーとして活躍する藤田・鈴木両氏と西豪州政府駐日代表ピーコック氏にお越しいただき、西豪州という地域について、経営者にとっての投資や資産管理の面でどういった優位性があるのかについて語っていただいた。

#### 【出席者】

クレイグ・ピーコック（西オーストラリア州政府 駐日代表部 駐日代表）  
鈴木竜一郎（オートラリア移住情報サービス、オートラリア投資アドバイス）  
藤田秀一郎（ファイナンシャル・プランナー）  
昆 吉則（「農業経営者」編集長）

（まとめ：榎田みどり）



### ● 資産の分散は常識

藤田秀一郎（ファイナンシャル・プランナー）  
ドルは安心ではないかと思います。

（「農業経営者」編集長） 私

たちは「メイド・イン・ジャパンからメイド・バイ・ジャパニーズへ」というテーマで、農業者も海外に出ようと思ひかけていますが、中でも今、注目

しているのが西オーストラリア州です。なぜ西オーストラリア州なのか、農業という枠だけでなく、資産運用や滞在先としてのメリットも含めてお話ししただこうと思います。まず、今の日本人にとっての資産管理、投資の有効性の点ではどうですか。

鈴木竜一郎（オートラリア移住情報サービス、オートラリア投資アドバイス） まず一番のポイントは、資産を円だけで持つているリスクを考えた方がいいということです。国際化がどんどん進む時代ですから、円がまだ力を持っているうちに、USドルでもユーロでもオーストラリア・ドルでもいいから、資産を分散しておいたほうがいい。その選択肢としてオーストラリアを見ると、オーストラリア通貨の格付けは、現在、ムーディーズでもスタンダード&プアーズでもトリプルAです。他に一番高い格付けを受けている通貨は、カナダ・ドルとUSドルだけですか、客観的にオーストラリア・

という立場で言うと、まず、収支の差額を効率良く増やして守っていくためにはどうするかということですね。資産運用で資産を分散するなら、日本国内

で分けるより海外と日本で分けたほうがいい。日本人を除く諸外国人の人たちは、ごくあたりまえに他の国の通貨を持っているのですが、日本人はその感覚が薄いですね。

昆 オーストラリアの中で、特に西オーストラリア州の魅力はどこにありますか。



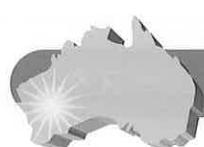
クレイグ・ピーコック Craig Peacock

（西オーストラリア州政府 駐日代表部 駐日代表）

【プロフィール】1961年オーストラリア・ニューサウスウェールズ州生まれ。82年ニューキャッスル大学を卒業。1983年早稲田大学日本語方言研究科を卒業。Berlitz Japan、JTBAustraliaに勤務後、MC&Pにて国際部門部長。1993年よりニューサウスウェールズ州駐日代表部副代表。1998年から2002年2月まで当州代表。2002年3月より現職。2002年には、オーストラリアのワイン輸出協議会の会長も勤める。他に、1991年三省堂英日辞書の翻訳業務などの実績を持つ。駐日代表としては、国際マーケティングの概念を十分に活用できる農業分野を中心とした新しいビジネスモデル構築の可能性について大きな興味と期待を寄せている。

鈴木 可能性の大きさでしょうね。経済成長率で見ると、ここ4～5年、オーストラリア国内のなかでも西オーストラリア州は目を見張る実績を出しています。また、人口の増加率、今後予定されている大きなプロジェクト、インフラの整備状況などを見ても、州として経済が伸びていく可能性は非常に大きい。その点で、今の時点での投資先として西オーストラリアを選ぶのは、間違った選択ではないと思います。

クレイグ・ピーコック（西オーストラリア州政府 駐日代表部 駐日代表） オーストラリアでは各州で、GNPではなくGSP（州の経済成長率）という数字を出しているのですが、オーストラリア全州の中でも西オーストラリア州が一番高く、去年が約5.4%、今年の見通しは約5%です。また、クイーンズランド州やビクトリア州などでは、以前は日本からの投資に反対する閉鎖的な意見も出たようですが、西オーストラリア州では一度もそういう



## メイド・イン・ジャパンからメイド・バイ・ジャパニーズへ

### 西オーストラリアからアジアを目指せ

声を聞いたことがありません。非常にオープンマインドだという点でも安心だと思います。

#### ● 金利4%!

#### まだ金利生活ができる国

藤田 ただ、資産として外貨を持つ時に一番怖いのは為替ですよね。円であれば、円高になるのが怖い。それなら、使用価値がある通貨を選んだ方がいい。

交換価値で考えるから怖くても、旅行に行くとかそこで暮らすとか、その場で使えるものとして考えれば怖くないわけです。その点、西オーストラリア州は、日本人にとって住みやすい、受け入れられやすい面があるのでないでしょうか。日本人の移住者比率が非常に高い印象があります。通貨として一番身近なのはUSドルかも知れませんが、暮らす場所としては、オーストラリアよりアメリカのほうが怖い感じがします。

昆 そうですね。州都のパースは、旅行家の兼高薫さんも「世界で一番住んでみたい街」と書かれていますが、本当にきれいな所ですね。それと、過疎化が進行している小さな田舎町に行つても、公園や戦没者慰霊碑などのパブリックな場所が、非常にきれいに清掃されているし、人々のホスピタリティも非常に強い。非常に質素な暮らしを

しているけれど、公共性をきちっと守っている。個人個人が、非常にプライドを持っていて民度の高い印象があります。

#### ピーコック 社会的、政治的にも安定

していく、安心度は非常に高いと思います。それと、たとえばベトナムからボートピープルでいらした方やイスラエルの方がビジネスで成功していたり

鈴木 移民が多いオーストラリアは、私たちが向こうで仕事をしていても、外国人として扱われることがあります。農業でもそうだと思いますが、ベトナム人だから、イスラエル人だから、オーストラリア人だからとどう見方を現地の人たちはしません。本当に出て何かをやるという時に、一番最初に感じるバリアのようなものを感じにくいですね。

昆 そう言えば、ピーコックさんは西オーストラリア州の公務員ですが、西オーストラリア州出身ではないですね。日本人も含めて外国人が公務員として働いていることに、私も最初驚きました。西オーストラリア州の外国人比率は、かなり高いのでしょうか？

ピーコック 特に、シンガポール人、インドネシア人などアジア系の外国人が多いですね。西オーストラリア州にとって、シンガポールがシンドニーよりも近いと言えば、背景が良くわかると思います。

鈴木 それと暮らしという面で言えば、オーストラリアは今、金利が4%程度なので、退職後、それまでの貯金の利子で生活できます。日本では遠い昔に忘れ去られましたけれど（笑）、まとまとお金を持ってオーストラリアに行けば、金利生活が可能なんです。

日本国内で年金生活するよりは、老後の10年間、オーストラリアで金利で遊んで暮らそうという魅力もあると思います。

藤田 そうですね。現時点では、金利の高さで言えばオーストラリアが一番いいですね。それと気候も日本人には暮らしやすいと言われています。

ピーコック オーストラリア州の公務員は辛いらしいですね（笑）。やはり四季のある国の方がいいようで、だから老後にパースに移住する日本人が増えているんでしょうね。

### ● アジア市場に最も近い 農業生産地

昆 農業を含めたビジネス面での、西オーストラリア州の可能性を考えてみたいのですが、西オーストラリアは日本から遠くて不便だというイメージがありますが、現実には、夜10時に成田



鈴木竜一郎  
(オーストラリア移住情報サービス、オーストラリア投資アドバイス)

【プロフィール】1996年に西オーストラリアへ移住し、1999年からFPとして、リタイアメントプランニング、リスクマネージメント、資産運用、税務に関するアドバイスを中心に活動。2002年に会計資格を取得。同年にJapan Australia Settlements Pty Ltdを設立し、西オーストラリアへのビジネス投資に関わるコンサルティング、移住サポートなどを正在行っている。Financial Planning Association of Australia会員 (AFPA)、CPA Australia会員 (ASA)、日本FP協会会員 (AFP)。

鈴木 それと暮らしという面で言えば、オーストラリアは今、金利が4%程度なので、退職後、それまでの貯金

も農場を持つ経営者は「家からの時間で言えば青森の農場よりパースの方が近い」と笑っていました。さらに、未



## メイド・イン・ジャパンからメイド・バイ・ジャパニーズへ

### 西オーストラリアからアジアを目指せ

昆 西オーストラリアでの農業は、気候的には湿度が低く、病害虫は少なく、コスト面でも恵まれているわけですが、実は投資を考える上で一番肝心なことは、いかに成長する市場と関係していくかだと想うのです。アジアで急激な消費の増大が考えられればこそ、アジアに直近の、しかも経済や政情の安定した南半球にある農業生産地という捉え方が肝心なのだと思います。その意味で言うと、僕は農業経営者だけでなく、フードビジネスや食品産業の方々、あるいは量販店の方々も含めてぜひ関心を持ついただきたいと思っているところなんです。

藤田 一回現地で企業を立ち上げてしまえば、オーストラリア・ドルを貯めることになりますから、さつき言つた使用価値が生きることになると思います。今のオーストラリアは、投資のチャンスといえばチャンスなんですよ。

ピーコック そうです。西オーストラリアが目指しているマーケットは、東オーストラリアといつてもシドニーからパースまで飛行機で一晩かかるほど距離があるのですから。

昆 今まで、どこか海外に進出して、儲けたカネは日本に持つて帰るという発想でしたが、これからは、向こうで

表1 西豪州 貿易相手国トップ10(2001-02)  
(単位:100万豪州ドル)

国名	輸出額	輸入額	総貿易額
①日本	7,737	1,161	8,897
②韓国	3,650	814	4,463
③中国	3,174	424	3,598
④アメリカ	2,150	1,046	3,195
⑤イギリス	1,822	370	2,192
⑥台湾	1,546	147	1,693
⑦シンガポール	1,302	566	1,867
⑧インドネシア	801	986	1,787
⑨香港	721	44	765
⑩南アフリカ	666	119	784

候的には湿度が低く、病害虫は少なく、コスト面でも恵まれているわけですが、実は投資を考える上で一番肝心なことは、いかに成長する市場と関係していくかだと想うのです。アジアで急激な消費の増大が考えられればこそ、アジアに直近の、しかも経済や政情の安定した南半球にある農業生産地という捉え方が肝心なのだと思います。その意味で言うと、僕は農業経営者だけでなく、フードビジネスや食品産業の方々、あるいは量販店の方々も含めてぜひ関心を持ついただきたいと思っているところなんです。

藤田 一回現地で企業を立ち上げてしまえば、オーストラリア・ドルを貯めることになりますから、さつき言つた使用価値が生きることになると思います。今のオーストラリアは、投資のチャンスといえばチャンスなんですよ。

ピーコック そうです。西オーストラリアが目指しているマーケットは、東オーストラリアではなく東南アジアなんです。東南アジア市場向けに商品を作っている感覚があると思います。

昆 西オーストラリアでの農業は、気候的には湿度が低く、病害虫は少なく、コスト面でも恵まれているわけですが、実は投資を考える上で一番肝心なことは、いかに成長する市場と関係していくかだと想うのです。アジアで急激な消費の増大が考えられればこそ、アジアに直近の、しかも経済や政情の安定した南半球にある農業生産地という捉え方が肝心なのだと思います。その意味で言うと、僕は農業経営者だけでなく、フードビジネスや食品産業の方々、あるいは量販店の方々も含めてぜひ関心を持ついただきたいと思っているところなんです。

藤田 一回現地で企業を立ち上げてしまえば、オーストラリア・ドルを貯めることになりますから、さつき言つた使用価値が生きることになると思います。今のオーストラリアは、投資のチャンスといえばチャンスなんですよ。

ピーコック そうです。西オーストラリアが目指しているマーケットは、東オーストラリアではなく東南アジアなんです。東南アジア市場向けに商品を作っている感覚があると思います。

昆 今まで、どこか海外に進出して、儲けたカネは日本に持つて帰るという発想でしたが、これからは、向こうで

### ● あくまでドライな 契約社会

昆 ただし逆に「鎖国」してきた日本人が行くと、ギャップを感じる面もあります。大手ビル会社の社長さんとお話をしたとき、最初、日本人的な感覚で契約関係を結んでしまった

藤田 日本は今まで、それだけラクしてみんな儲かつてきたからなんでしょうね。それが不況になつて、会社から稼いだお金は向こうで使う発想があつていいですよね。農業者も、向こうにも農場を持って、場合によっては向こうも必要ですね。次の世代は地域や国境についても今とは違う考え方をするようになると思います。日本人は国境の観念に囚われすぎてはいらないだろうか。実は村や業界と言うものへの縛られ方も同じのですが、その変化のための準備をしてあげるのが我々の世代の役割ではないでしょうか?

鈴木 日本と時差が1時間しかないのは大きなメリットですね。同じ時間帯でビジネスが進んでいくので、夜中まで待って電話をしたりと、時差に気を使つて必要もないですし、移動しても時差ボケがない。シェア・マーケットもほぼ同じ時間に開いたり閉じたりしますから、日本と連動性を持ちやすい。

藤田 差し支えなく、日本と連動性を持ちやすい。日本人はあまりに日本の感覚だけで考えていましたよね(笑)。異質なところに行くというのは、そういう緊張関係を持つことなんだという意識が必要だと思います。とにかく日本人は契約に弱い。

昆 オーストラリアに限らず、日本人はあまりに日本の感覚だけで考えていましたよね(笑)。異質なところに行くというのは、そういう緊張関係を持つことなんだという意識が必要だと思



## メイド・イン・ジャパンからメイド・バイ・ジャパニーズへ

### 西オーストラリアからアジアを目指せ

昆 でも、そういう目に遭うと、オーストラリアは怖いというイメージになつちやうんでしようね。

鈴木 特に外国に行くと、日本語ができる外国人がいるだけで安心して

### ● 海外に“出作り”の時代 が来ててもおかしくない

鈴木 そうですね。オーストラリアでは、たとえば雇用契約にしても、雇用者は企業に対する忠誠心など持ちませんから、企業のイメージを守ろうとかお客さんを守ろうという感覚がないんです。契約によって自分に与えられた仕事だけをやるし、それで会社が潰れてもかまわない（笑）。農業をやろうという人は、ちょっと違うかとは思いますが。日本人は言われたままになつてしまいがちですが、契約文書にサインしてしまっても、頑張ればひっくり返せることがあるんです。実際に、保証人の意味を知らないでサインしてしまったイタリア人が、裁判で勝つたケースもあります。言葉がわからない人には、わかるように補足説明する法的義務があるんです。その義務違反だから免責だという戦い方もできるんです。主張すべき時には主張しないとダメなんですよね。

**藤田秀一郎**

(フィナンシャル・プランナー)

【プロフィール】千葉エフピー協会組合代表理事、公的機関貯蓄相談員。農業経営者、会社経営者、医師、未亡人、退職者などへ経理・財務・法務・労務コンサルティングを行っており、実践的な業務と総合的なアドバイスには定評がある。本誌の読者サービス「農通コンサルティング」の統括チーフコンサルタントとして、「教えて！ 経営改善のための“あの手この手”」を好評連載中。著書に「FPの知恵袋」(BKC) 他がある。



すぐにリストラされるのも、契約に弱いというか、交渉に弱いからですよ。鈴木 そうですね。オーストラリアでは、たとえば雇用契約にしても、雇用者は企業に対する忠誠心など持ちませんから、企業のイメージを守ろうとかお客さんを守ろうという感覚がないんです。契約によって自分に与えられた仕事だけをやるし、それで会社が潰れてもかまわない（笑）。農業をやろうという人は、ちょっと違うかとは思いますが。日本人は言われたままになつてしまいがちですが、契約文書にサインしてしまっても、頑張ればひっくり返せることがあるんです。実際に、保証人の意味を知らないでサインしてしまったイタリア人が、裁判で勝つたケースもあります。言葉がわからない人には、わかるように補足説明する法的義務があるんです。その義務違反だから免責だという戦い方もできるんです。主張すべき時には主張しないとダメなんですよね。

ピーコック 危険なケースが多いですよ。日本語ができる現地人だけでなく、オーストラリアには日本から逃げて来ている日本人もいますし、そういう人の方が非常に危ないと思うんですよ。パースではあまり聞きませんが、シドニーではよくありますね。

しまって、それで騙されてしまうこともありますね。昆 逆に日本語ができる外国人ってのは危険なんですね（笑）。

ピーコック 危険なケースが多いですよ。日本語ができる現地人だけでなく、オーストラリアには日本から逃げて来ている日本人もいますし、そういう人の方が非常に危ないと思うんですよ。パースではあまり聞きませんが、シドニーではよくありますね。

昆 税金面ではどうですか。会社を立ち上げたときの税金体系など、基本的なところをもう少し説明していただけますか。

鈴木 オーストラリアに住んで仕事をしたり、オーストラリアの法人として活動するか、純粋に投資として運用するかで、税金が全然違います。

ピーコック 例えば日本に住みながら、オーストラリアに投資して資金運用する場合は、所得税は課税されません。源泉徴収で、金利的なものであれば10%引かれるとか、企業配当金として受けける場合には15%課税されるということになります。ただし、オーストラリアに行って現地法人を作ると、法人税として所得（利益）の30%が引かれます。その点をどう考えるかは経営戦略上の問題だと思います。

昆 今までのお話の通り、農業に

ピーコック パートナーシップでやるのか、単なる技術指導でやるべきなのか、いろいろケーススタディを組んでみないと判断できないですね。

昆 今までのお話の通り、農業にとどまらぬ資産管理のテーマとしても農業の経営戦略としても西オーストラリアは注目すべき場所なわけですよ。メイド・バイ・ジャパニーズの基本戦略は、農業や食産業の世界で、これまでの日本や日本人の経験が、これからのアジアで必要とさ

れて活かす場があるのでないかとあります。またそれは、日本農業を守るという意味でもあるのです。海外に農場を作るというこ

とにまだ抵抗があります。でも、例えればバレイショひとつとつても、今は生では輸入できない。けれど、やがて必ず解禁になるでしょう。約10年前、我が国会では“一粒たりとも…”と三回も全会一致で米輸入反対決議をした結果が今なのですから。それならば、北海道でバレイショをブランド化している農業経営者たち、あるいは各地の農協や生産法人は、端境期にオーストラリアでバレイショを作つて、それを西オーストラリアの自前ブランドのバレイショとして日本で売るということにチャレンジすべきでしょう。ただ、壁を高くするだけではむざむざと負けるだけなのです。むしろそうしたチャレンジこそが日本の農業を守ることなのだと僕は思うのです。今はまだ抵抗があつても、5年後には、状況が全然変わってしまいますよ。日本の消費者は海外産であつても日本

昆 今までのお話の通り、農業に

ピーコック を持つでしょう。そういう時代が来る

ことを農業者も消費業界の方々も

考えたときがいいです。今日は

鈴木 特に外国に行くと、日本語ができる外国人がいるだけで安心して